

革新的サービス

試作開発・設備投資型

株式会社はなはな

歩行障がい者のためのオーダーメイドの筋力トレーニングの事業化



ロボットスーツ装着の様子



HALを取り付けてリハビリに励む



足こぎ車いす



利用者も介護者も笑顔に

会社概要

会社名 株式会社はなはな
代表取締役 岡田久美子
所在地 〒870-0855 大分県大分市豊饒73番地1
実施場所 〒870-1155 大分県大分市玉沢1027番地の1
E-mail hanahanaoita@gmail.com
URL http://hanahana-care.jp
事業内容 介護・福祉事業、保育事業
資本金 100万円
設立 平成23年8月
社員数 80名



代表取締役
岡田 久美子



事業計画概要

介護業界の人手不足でリハビリを受けられない人のために、九州初、特殊足こぎ車いすと介護ロボットを併用した筋力トレーニングを介護保険料の範囲内でサービス提供する。

背景・経緯

潜在的なリハビリのニーズを取り込む

同社は「安くて質の良い介護サービスを提供したい」（岡田社長）と、平成23年に介護事業を始めた。

介護業界の慢性的な人手不足により、要介護者のリハビリ時間の確保が課題となっている。その影響で日帰り介護（デイサービス）は、レクリエーション中心の生活リハビリが主とされており、筋力トレーニングまで行う例は少ない。また全ての患者に目が行き届かず安全確保が困難なため、マッサージのみのプログラムになることも多い。

また介護保険では、リハビリ料金が30分6000円と高額なため、家族は身体介護を優先する傾向にあるという。このような諸課題があるため、リハビリをしたくてもできないという潜在的なニーズを感じていたという。

同社は平成28年、大分市玉沢に敷地が広く、より効果的なリハビリができる新たな事業所を開設した。ここで新たに取り組んだのが、特殊足こぎ車いすと介護ロボットを併用した筋力トレーニングだ。

事業内容

ロボットスーツと足こぎ車いすを導入

医師からのアドバイスを受け、脳梗塞の影響で体を動かす命令系統が混乱している人に対し、サイバーダイン社製の装着型ロボットスーツ「HAL（ハル）」を使い、この命令系統を整理する。その後、足こぎ車いすを使うというリハビリの組み合わせを考案した。動かない体を自らの気持ちで動かすことで、前向きにリハビリに取り組むきっかけになると考えた。

HALは「体を動かしたい」という意志を電気信号で感じ取り、体を動かす助けをする。これを何回も繰り返すことで、切断されていた命令回路が迂回（うかい）路を作り、修復するという。ほんのわずかだが動くという事実の小さな積み重ねが、体の不自由な人にとって大きな喜びとなり、次のリハビリに取り組もうという前向きな姿勢につながっていく。

一方、足こぎ車いすは車いす型の3輪車。前輪部

分に足こぎペダルがあり、手元で左右の方向転換、ブレーキが操作できる。老人介護施設で導入したのは大分県内で初めてだったという。

成果

多人数で楽しみながらリハビリ

HALを2台購入し、歩行障がい者のためのオーダーメイドの筋力トレーニングのプログラムを病状別で開発した。

HALを使うことで今まで全く動かなかった手足が動いた脳梗塞の患者がいる。家族が涙を流して喜ぶ風景も珍しくない。

また、足こぎ車いすは自分で動かす喜び、スピード感が利用者を前向きな気持ちにさせる。口数が少ない人がよく話そうになったり、表情が豊かになるなども効果も出ているという。

足こぎ車いすを使って外出し、球技や歩道を走行する訓練を多人数ですること、自発的な筋力トレーニングを実現。特に脳梗塞の患者は長時間乗り続けることで、足の筋拘縮が緩和され脚に筋肉がつき、立位をとることが可能になった。

足こぎ車いすは転倒の可能性が少なく、一人の職員で複数の患者に対応できるという特徴がある。多人数で実施するリハビリは、利用者も楽しみながら取り組むことで表情が明るくなり、認知機能が格段に向上したという。

展望

地域の催しなどで周知を

「我々が嫌々やっても身につかないのと同じで、障がいがある人がやりたくないことをやり続けても効果が無い」と岡田社長は言う。

リハビリ方法が確立したことで「運動会や祭りなどで地域の人にも見てもらいたい」と意欲的。「自分も使ってみたいという人が少しでも増えれば」と期待を膨らませる。

まとめ 要介護者が前向きに、楽しみながら取り組めるリハビリを実現。
介護業界の人手不足にも貢献する。